

## 平成 27 年度自己評価シート(年度末評価)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林 秀則	全・定・通	☑	分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	---	---

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
1 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。							
①中高連携を推進している。	大崎上島中学校卒業生の入学率(対卒業生数)	37%	50%	62%	A	文化祭・体育祭の相互乗り入れ、中学・高校での面談等の実施により、本校の良さをアピールすることができた。	全校
②地域学習「大崎上島学」を実施し、地域に誇りを持ち、地域に貢献する生徒を育成している。	生徒アンケート「「大崎上島学」を学んで、地域に誇りを持つことができた。」の肯定的評価の割合	新規	80%	100%	A	3年生リサーチⅢで「大崎上島学」を選択した生徒アンケートは、全員肯定的評価であった。	教務部 リサーチ 担当者
③教育活動等について積極的に情報発信している。	HP 更新回数	新規	25 回	66 回	A	実績値が目標値の2倍以上である。	教務部 進路指 導部
	HP 満足度アンケート	新規	70%	90%	A	HPを閲覧されている方の肯定的な意見が多かった。	教務部 進路指 導部

### 【評価結果の分析】

- ・今年度は数学、英語で毎週2時間の授業を中学校で実施した。3年生が1クラスであったため、39名の生徒全員の教科指導を行うことが出来た。
- ・本校の授業研究や互見授業について中学校に周知した。また、中学校、小学校の公開研究授業に参加した。
- ・中学校体育祭に本校のソーラン部が参加し演舞を披露した。中学生へのアンケートは、「ソーラン部の演舞は迫力があつた」、「演舞したことで盛り上がつた」の質問では、肯定的評価の割合が80%以上であった。
- ・高校体育祭では、昨年度に引き続き中学生が参加した。「楽しかつた」「来年は高校生としてやりたい」「こんな競技も追加してほしい」など生徒から前向きな感想が多数であった。また、今年度は同窓会青年部が参加するなど、地域を巻き込んだ体育祭となつたため盛り上がつた。
- ・高校文化祭では茶道部の中学生が参加した。中高で同じ指導者に指導をしてもらっていることもあり、準備や運営などもスムーズにできた。振り返りアンケートの肯定的評価も100%であった。中学校文化祭へは本校和太鼓部が参加した。迫力ある演奏を披露し、本校の良さを中学生に強くアピールすることができた。
- ・5月下旬に中学校教員による高1生へのカウンセリングを三日間実施した。高校生活の状況や課題を聞き取り、円滑に高校生活が送れるようアドバイスしていただいた。10月中旬には進路相談を中学校の3年生全員に実施した(欠席者除く)。中学校と高等学校との違い、今学んでいる中学校の学習の大切さ、高校卒業後の進路等をアドバイスした。実施後は、面談の結果を持ち寄り、中学校と連携を行った。相互に情報を共有することで指導に活かした。
- ・島内のフリーマーケット出店、夏祭りへの参加など地域での活動が増加した。また、島嶼部5校合同研修会を開催し、相互に取組を発表することで生徒の交流を深めることができた。
- ・1年生リサーチⅠでは、島内の介護施設にて福祉体験を実施し、島内の介護の現状について理解を深めることができた。
- ・今年度から海洋体験を実施し、1年生ではシーカヤック、2年生ではフィッシングを行った。地域の自然に親しみながらの体験を通して、大崎上島の良さを改めて認識することができた。
- ・3年生リサーチⅢの「大崎上島学」では、生徒が主体的に地域の課題を考え、島の子育てや医療の実態について課題解決学習を行うことができた。活動の中で、地域の幅広い世代の交流を目的とした「子育てサミット」を実施することができ、地域に対する理解や愛着を深めることができた。
- ・今年度本校HPを刷新した。生徒・保護者・地域の方などへの情報発信として、HPを利用した。
- ・HP更新週間を設けた。部活動の情報を積極的に発信した。

【今後の改善方策】

- ・2教科だけでなく、可能な範囲で他の教科も授業連携する。
- ・中学校への周知を早期に行い、本校の授業研究に多く参加していただけるよう準備する。また共通のテーマを設定した授業研究を目指す。
- ・中学生の高校文化祭の参加は、茶道部**のみ**の参加であった。来年度は美術作品や総合的な学習の時間等での成果を展示するなどブースの設置を検討する。
- ・高1生へのカウンセリングや進路相談をもっと早い時期に実施したい。進路相談は一学期中に実施し、進路が未定の生徒にアピールする。
- ・中学生との合同練習を積極的に行う。ソーラン・和太鼓など高校でしかできない部活動に参加させ、高校生にも上級生として意識をもたせる。
- ・HP 更新回数**の**目標値を70回に引き上げ、来年度以降もHPを利用した情報発信を目指す。
- ・HP作成担当者変更による引継ぎを年度内に行う。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
2 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。							
①生徒指導の三機能を生かした授業づくりを推進することにより、生徒の自己肯定感が高まる <b>とともに</b> 、生徒は基礎的な知識及び技能を習得している。	授業評価アンケート「授業では、「本時の目標」が板書されている。」の肯定的評価の割合	91%	95%	94%	A	目標値を1ポイント下回ったが、昨年度の実績値を上回った。	教務部 各教科
	授業評価アンケート「授業では、「振り返り」の時間がある。」の肯定的評価の割合	79%	85%	88%	A	平成26年度の実績値を9ポイント上回った。	教務部 各教科
	授業評価アンケート「授業を受けて、やればできるという意欲が高まった。」の肯定的評価の割合	新規	60%	77%	A	目標値を上回った。	教務部 各教科
	広島県高等学校等学力調査において平均通過率60%以上の科目数	新規	3科目	0科目	D	数学B、外国語Bで平均通過率が前年度を上回ったが、すべての科目で平均通過率60%を下回った。	教務部 各教科
②能動的な学びを推進することにより、生徒の主体的に学ぶ態度が育成されている。	学習時間調査1日平均2時間以上の生徒の割合(%)	1%	10%	0%	D	1日の平均学習時間は15分であり、目標値を達成できなかった。	教務部 各教科
	授業評価アンケート「授業では、話し合いなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面がある。」の肯定的評価の割合	67%	68%	85%	A	前年度の実績値を18ポイント上回った。	教務部 各教科
	授業評価アンケート「授業を受けて、自分からすすんで勉強しようという意欲が高まった。」の肯定的評価の割合	新規	50%	71%	A	目標値を上回った。	教務部 各教科
	ICEモデルを活用した学習指導案の作成	新規	2回	2回	A	互見授業週間では全教員がICEモデルを活用した学習指導案を作成した。	教務部 各教科

【評価結果の分析】

- ・生徒による授業評価アンケートを年間2回(7月、12月)実施し、指導力の向上や授業の改善を図った。
- ・教育センターのサテライト講座を活用し、生徒指導の三機能を生かした授業づくりについて、研究・実践した。

- ・授業評価アンケートにおける肯定的評価の割合は、前年度実績値を上回っている。
- ・広島県高等学校学力調査では、数学B、外国語Bで平均通過率が前年度を上回った。第2学年においては、外国語で1年次の学校平均通過率を上回ったが、すべての科目で学校平均通過率は60%を下回った。
- ・互見授業週間では全教員がICEモデルを活用した学習指導案を作成し、情報交換をした。
- ・授業評価アンケートにおける肯定的評価の割合は、前年度実績値、目標値を上回ったが、家庭学習時間1日平均2時間以上の生徒の割合は、0%であり、1時間以上の生徒の割合は3%であった。週末課題の配付等学習指導が出来ていないため、学習習慣が身に付かず、基礎基本の定着も不十分である。

【今後の改善方策】

- ・生徒の学習意欲を高め、学力を付ける「授業づくり」に向けて、「本時の目標(めあて)」及び「授業の流れ」の明示、「振り返りシートを使った振り返りの実施」、「言語活動」の工夫」の取組をさらに推進する。
- ・一方的な講義型の授業展開ではなく、双方向型の授業を展開する。また、各教科の特性に応じて言語活動を充実させる。授業の中でアクティブラーニングを充実させることで、生徒が能動的に課題を発見し思考し解決しようとする力を養う。
- ・学習習慣が定着するよう各教科・公営塾と連携し、組織的な取組みを推進する。学校・塾・家庭での学習を定着させるため、週末課題を毎週配付する。
- ・学習時間調査には、公営塾で学習した時間が含まれていない。学習時間調査票の改善や記入方法について指導を行う。
- ・生徒一人一人の個別カリキュラムを作成し、進路実現を図る。面談を実施し進路意識を向上させ、公営塾への参加を促す。
- ・土曜日補習を実施する。そのための交通費や報酬について検討する。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
3 きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。							
①組織的な進路指導体制により、生徒の進路第一希望が実現している	進路第一希望合格率	96%	90%以上	100%	A	3年生 25 名が希望進路を達成した。	進路指導部
	国公立大学希望者の合格率	0%	60%以上	—	D	国公立大学受験者がいなかった。	進路指導部
	公営塾との連携回数	新規	24 回	38 回	A	時間割内に組み込むことにより、週1回定例化できた。	担当者

【評価結果の分析】

- ・今年度は6月時点の第一希望に沿った進路を決定することができた。
- ・国公立大学受験に向け、1学期から推薦入試の対策を講じたが、夏休みに進路変更したため受験希望者がいなかった。
- ・組織的な進路指導を行うため、今年度新たにロードマップ(進路年間指導計画)を作成した。
- ・公営塾との連携は、木曜日1時間目に公営塾、管理職、国語・数学・外国語(英語)の担当で会議を持つことが出来た。

【今後の改善方策】

- ・進路希望や進路選択について、本人・担任・保護者・学校の方針を早期に確定し、指導に当たる。
- ・進学希望者のうち、大学進学希望者には、進路希望に応じて適切な第1志望校と併願校を考えさせる。第1志望校については推薦AO入試を利用し、積極的に受験させる。併願校については一般入試で合格できるよう指導する。
- ・ロードマップ(進路年間指導計画)の周知を図るとともに、学期ごとのアンケートを基にブラッシュアップしていく。
- ・国公立大学推薦AO入試に向けた対策を講じる。それとともに合格を目指すべき学校の一般入試対策については年間指導計画を作成し、学力向上を目指す。
- ・公営塾との連携は、今年度は途中からの実施であったため、3教科のみの出席に留まったが、各学年の担任の出席のもと、指導方針や生徒の状況把握に努め、より緊密な連携を図る。
- ・公営塾の実施時間帯に、各々の教職員が生徒とかかわりを持つように依頼する。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当 部等
		実績値	目標値	実績値			
4 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。							
①生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めている。	生徒アンケート「私は、授業におけるベルスタートにきちんと対応している。」の肯定的評価の割合	94%	95%	97%	A	・ベルスタートは定着しつつある。意識が低い生徒もいるので、引き続き指導をしていく。	生徒指導部
	1日当たりの遅刻者数を2.0人以下にする。	2.5人	2.0人	2.47人	C	・目標値に到達できなかった。さらなる取り組みの工夫が必要である。	生徒指導部
②生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育てている。	保護者アンケート「高校生はよく挨拶をする。」の肯定的評価の割合	63%	65%	67%	B	・自ら進んで挨拶をする生徒も増えてきた。生徒会の挨拶運動等で盛り上げていきたい。	生徒指導部
	保護者アンケート「高校生は制服をきちんと着用している。」の肯定的評価の割合	84%	85%	79%	C	・目標値を下回った。服装違反を繰り返す生徒が固定化していて、全体指導と個別指導のバランスが必要である。	生徒指導部

#### 【評価結果の分析】

- ・ベルスタートは、多くの生徒が意識をして行動できているが意識の低い生徒もいる。
- ・遅刻は、毎年1学期は全学年とも意識が高く目標値をクリアできているが、2学期以降気候の緩みや気候の変化により遅刻者数が増加している。
- ・挨拶は、昨年度の実績値を上回った。
- ・正しい制服の着用は、学校指定以外のセーターやコートを着用するなど違反を繰り返す生徒が数名いた。指導の方法について、教職員で共通理解を図り学校全体で指導が必要である。

#### 【今後の改善策】

- ・ベルスタートの徹底や遅刻指導の見直しを行い、時間を守ることの大切さについて理解をできるように指導する。
- ・遅刻の減少に向けて、「反省文を書かせる」、「保護者を召喚する」などの厳しい指導を行う。
- ・生徒会を中心とした挨拶運動など主体的な活動を促していく。
- ・正しい制服の着用の仕方や違反について、年度当初に全校で確認をし、生徒も教職員も共通理解を図り学校全体で指導していく。
- ・保護者アンケートより、部活動の充実が望まれている。そのため各部で外部指導者の活用を検討する。

## 平成27年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林 秀則	全・定・通	Ⓐ・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

ア 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

- ・今年度は数学、英語で毎週2時間の授業を中学校で実施した。3年生が1クラスであったため、39名の生徒全員の教科指導を行うことが出来た。
- ・本校の授業研究や互見授業について中学校に周知した。また、中学校、小学校の公開研究授業に参加した。
- ・中学校体育祭に本校のソーラン部が参加し演舞を披露した。中学生へのアンケートは、「ソーラン部の演舞は迫力があつた」、「演舞したことで盛り上がった」の質問では、肯定的評価の割合が80%以上であった。
- ・高校体育祭では、昨年度に引き続き中学生が参加した。「楽しかった」「来年は高校生としてやりたい」「こんな競技も追加してほしい」など生徒から前向きな感想が多数であった。今年度は同窓会青年部が参加するなど、地域を巻き込んだ体育祭となったため盛り上がった。
- ・高校文化祭では茶道部の中学生が参加した。中高で同じ指導者に指導してもらっていることもあり、準備や運営などもスムーズにできた。振り返りアンケートの肯定的評価も100%であった。中学校文化祭へは本校和太鼓部が参加した。迫力ある演奏を披露し、本校の良さを中学生に強くアピールすることができた。
- ・5月下旬に中学校教員による高1生へのカウンセリングを三日間実施した。高校生活の状況や課題を聞き取り、円滑に高校生活が送れるようアドバイスしていただいた。10月中旬には進路相談を中学校の3年生全員に実施した(欠席者除く)。中学校と高等学校との違い、今学んでいる中学校の学習の大切さ、高校卒業後の進路等をアドバイスした。実施後は、面談の結果を持ち寄り、中学校と連携を行った。相互に情報を共有することで指導に活かした。
- ・今年度本校HPを刷新した。生徒・保護者・地域の方などへの情報発信として、HPを利用した。
- ・島内のフリーマーケット出店、夏祭りへの参加など地域での活動が増加した。また、島嶼部5校合同研修会を開催し、相互に取組を発表することで生徒の交流を深めることができた。
- ・1年生リサーチⅠでは、島内の介護施設にて福祉体験を実施し、島内の介護の現状について理解を深めることができた。
- ・今年度から海洋体験を実施し、1年生ではシーカヤック、2年生ではフィッシングを行った。地域の自然に親しみながらの体験を通して、大崎上島の良さを改めて認識することができた。
- ・3年生リサーチⅢの「大崎上島学」では、生徒が主体的に地域の課題を考え、島の子育てや医療の実態について課題解決学習を行うことができた。活動の中で、地域の幅広い世代の交流を目的とした「子育てサミット」を実施することができ、地域に対する理解や愛着を深めることができた。
- ・HP更新週間を設けた。部活動の情報を積極的に発信した。

イ 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

- ・生徒による授業評価アンケートを年間2回(7月、12月)実施し、指導力の向上や授業の改善を図った。
- ・教育センターのサテライト講座を活用し、生徒指導の三機能を生かした授業づくりについて、研究・実践した。
- ・授業評価アンケートにおける肯定的評価の割合は、前年度実績値を上回っている。
- ・互見授業週間では全教員がICEモデルを活用した学習指導案を作成し、情報交換をした。
- ・授業評価アンケートにおける肯定的評価の割合は、前年度実績値、目標値を上回ったが、家庭学習時間1日平均2時間以上の生徒の割合は、0%であり、1時間以上の生徒の割合は3%であった。

ウ きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

- ・今年度は6月時点の第一希望に沿った進路を決定することができた。
- ・組織的な進路指導を行うため、今年度新たにロードマップ(進路年間指導計画)を作成した。
- ・公営塾との連携は、木曜日1時間目に公営塾、管理職、国語・数学・外国語(英語)の担当で会議を持つことが出来た。

エ 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道德教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

- ・ベルスタートは、多くの生徒が意識をして行動できている。
- ・遅刻は、毎年1学期は全学年とも意識が高く目標値をクリアできているが、2学期以降は遅刻者数が増加している。
- ・挨拶は、昨年度の実績値を上回った。

・正しい制服の着用は、学校指定以外のセーターやコートを着用するなど違反を繰り返す生徒が数名いた。

## (2) 課題

ア 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

- ・文化祭、体育祭では、中学校との相互乗り入れを今後とも継続していく。
- ・中学校教員による高1生へのカウンセリング及び中学校の3年生全員に実施した進路相談は、開始時期をもう少し早く実施できるよう、中学校側に働きかける。
- ・オキウラマルシェ出店、高校生デザインプロジェクト、夏祭りへの参加など地域での活動を今後とも継続する。

イ 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな

- ・広島県高等学校学力調査では、数学B、外国語Bで平均通過率が前年度を上回った。第2学年においては、外国語で1年次の学校平均通過率を上回ったが、すべての科目で学校平均通過率は60%を下回った。
- ・週末課題の配付等学習指導が出来ていないため、学習習慣が身に付かず、基礎基本の定着も不十分である。
- ・学習時間調査には、公営塾で学習した時間が含まれていない。学習時間調査票の改善や記入方法について指導を行う。

ウ きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

- ・国公立大学受験に向け、1学期から推薦入試の対策を講じたが、夏休みに進路変更したため受験希望者がいなかった。

エ 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

- ・ベルスタートについて意識の低い生徒もいる。
- ・遅刻は、2学期以降気の緩みや気候の変化により遅刻者数が増加している。
- ・正しい制服の着用の指導の方法について、教職員で共通理解を図り学校全体で指導が必要である。

## 2 今後の改善方策

ア 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

- ・2教科だけでなく、可能な範囲で他の教科も授業連携する。
- ・中学校への周知を早期に行い、本校の授業研究に多く参加していただけるよう準備する。
- ・中学生の高校文化祭の参加は、茶道部のみでの参加であった。来年度は美術作品や総合的な学習の時間等での成果を展示するなどブースの設置を検討する。
- ・高1生へのカウンセリングや進路相談をもっと早い時期に実施する。進路相談は一学期中に実施し、進路が未定の生徒にアピールする。
- ・中学生との合同練習を積極的に行う。ソーラン・和太鼓など高校でしかできない部活動に参加させ、高校生にも上級生として意識をもたせる。
- ・HP更新回数の標値を70回に引き上げ、来年度以降もHPを利用した情報発信を目指す。

イ 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

- ・生徒の学習意欲を高め、学力を付ける「授業づくり」に向けて、「「本時の目標(めあて)」及び「授業の流れ」の明示」、「振り返りシートを使った振り返りの実施」、「言語活動」の工夫」の取組をさらに推進する。
- ・一方的な講義型の授業展開ではなく、双方向型の授業を展開する。また、各教科の特性に応じて言語活動を充実させる。授業の中でアクティブラーニングを充実させることで、生徒が能動的に課題を発見し思考し解決しようとする力を養う。
- ・学習習慣が定着するよう各教科・公営塾と連携し、組織的な取組みを推進する。学校・塾・家庭での学習を定着させるため、週末課題を毎週配付する。
- ・生徒一人一人の個別カリキュラムを作成し、進路実現を図る。面談を実施し進路意識を向上させ、公営塾への参加を促す。
- ・土曜日補習を実施する。そのための交通費や報酬について検討する。

ウ きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

- ・進路希望や進路選択について、本人・担任・保護者・学校の方針を早期に確定し、指導に当たる。
- ・進学希望者のうち、大学進学希望者には、進路希望に応じて適切な第1志望校と併願校を考えさせる。第1志望校については推薦AO入試を利用し、積極的に受験させる。併願校については一般入試で合格できるよう指導する。

- ・ロードマップ(進路年間指導計画)の周知を図るとともに、学期ごとのアンケートを基にブラッシュアップしていく。
- ・国公立大学推薦AO入試に向けた対策を講じる。それとともに合格を目指すべき学校の一般入試対策を年間指導計画を作成し、学力向上を目指す。
- ・公営塾との連携は、今年度は途中からの実施であったため、3教科のみの出席に留まったが、各学年の担任をその会に出席させ、指導方針や生徒の状況把握に努め、より緊密な連携を図る。
- ・公営塾の実施時間帯に教職員に足を運ぶよう依頼する。

エ 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道德教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

- ・ベルスタートの徹底や遅刻指導の見直しを行い、時間を守ることの大切さについて理解をできるように指導する。
- ・遅刻の減少に向けて、「反省文を書かせる」、「保護者を召喚する」などの厳しい指導を行う。
- ・生徒会を中心とした挨拶運動など主体的な活動を促していく。
- ・正しい制服の着用の仕方や違反について、年度当初に全校で確認をし、生徒も教職員も共通理解を図り学校全体で指導していく。
- ・保護者アンケートより、部活動の充実が望まれている。そのため各部で外部指導者の活用を検討する。

### 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・「学びの変革」に向けて、すべての授業においてアクティブ・ラーニングや ICE モデルを積極的に導入する。
- ・塾スタッフと情報を共有し、進路実現に向けて果敢に挑戦する生徒が育つよう、オーダーメイドのカリキュラム作成する。
- ・大崎上島の伝統・文化・産業・自然を教材とした課題発見・解決型キャリア教育である「大崎上島学」の教育内容づくりを進め、魅力ある教育内容づくりを行う。
- ・中高連携は着実に進んでいる。今後は中学校と共同して授業づくりについての研究等、より有効性の高い施策を企画・立案し実施する。
- ・情報発信については、ホームページのリアルタイムの更新、パンフレットの作成と配布等一定の成果を上げた。しかし、島外・全国に向けての発信について大きな課題がある。今後は、島外・全国に向けた情報発信の方法を工夫する必要がある。

## 平成 27 年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 28 年 3 月 15 日

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	大林 秀則	全・定・通	Ⓐ・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には適切である。しかし、家庭学習が2時間以上の割合や国公立の合格者数など、学習面について目標と実態がかけ離れている。できる所からコツコツと生徒とともに取組を進めてもらいたい。</li> <li>・生徒、保護者、地域から信頼され魅力ある学校づくりを目標にしている。</li> </ul>
目標の達成状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切である。</li> <li>・数値目標に対する達成度が具体的な形で示されていて分かり易い。</li> </ul>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・達成目標と評価指標がマッチしていない部分がある。</li> <li>・ほとんどの項目において前年度実績を上回っている。評価 D が向上するよう取組を継続してほしい。</li> </ul>
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切である。</li> <li>・適切に分析が行われている。</li> </ul>
今後の改善方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な学力を身につけさせるための手立てが必要である。</li> <li>・分析を基に具体的な改善方策が示されている。</li> </ul>
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員がよく頑張っている。他校と比べて業務が多くなるが、その分やりがいも大きい。来年度も PTA と協力して取組をすすめていただきたい。</li> <li>・地域の評価が高くなっている。</li> <li>・次年度も中学校の進学率が 60% 以上になるように中高連携が充実することを期待している。</li> <li>・生徒の学習意欲を高めるために、今後も組織的な取組を推進して行ってほしい。授業参観も組み込んでいってはどうか。</li> </ul>



